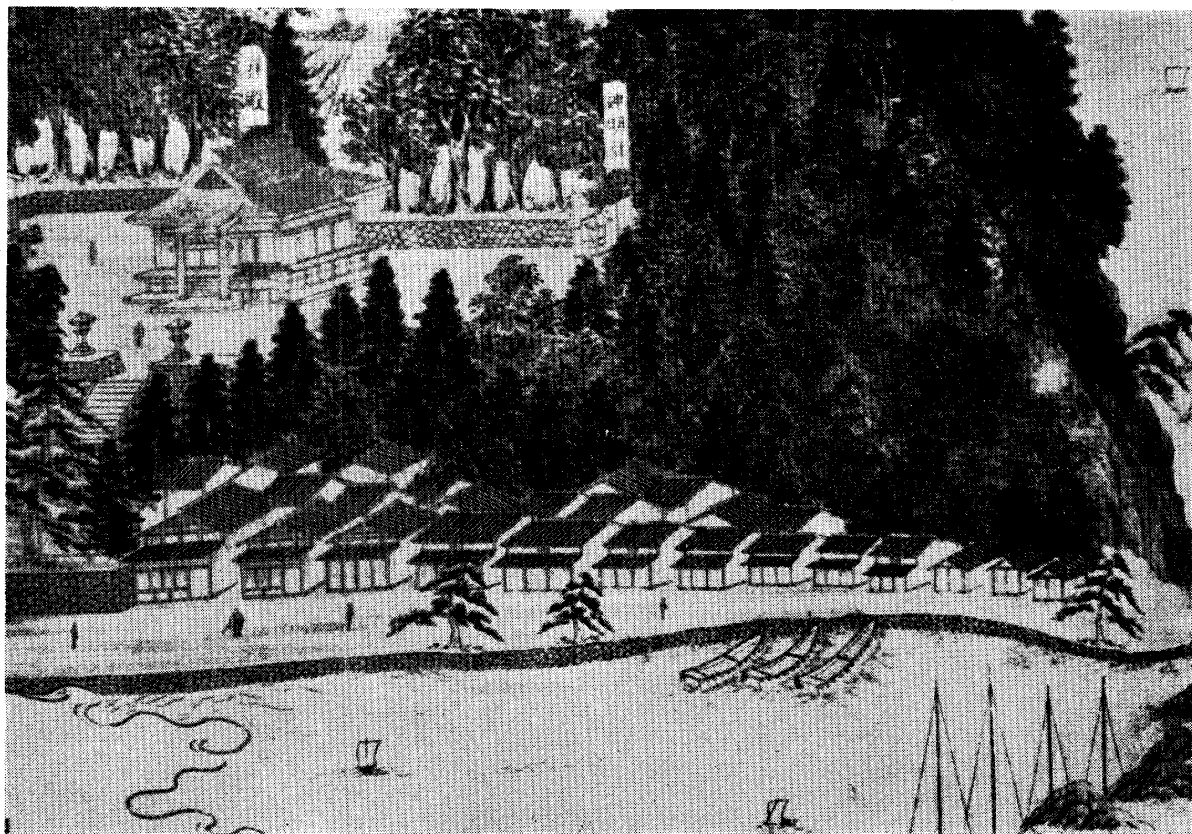


石川県古民家調査報告 其の2

輪 島 の 船 宿

(石川県古民家調査)

由 良 滋



日本名蹟図誌 “加能宝鑑” 輪島崎神社部分 船宿の町並

輪島港，最北端にある漁村，輪島崎町は藩政時代の日本海海運の盛んな頃から船宿，廻船問屋が建ち並び，和船の出入があった明治40年頃迄続いていた。隆盛時には7軒の船宿があり，その内容を上げると①沖の崎（倉庫業，船宿）②刀禰（廻船問屋，船宿）③浦屋（倉庫業，船宿）④あふぎや（船宿）⑤宮野屋（廻船問屋，倉庫業，船宿）⑥浅津屋（倉庫業，船宿）⑦板屋（船宿）等であった。

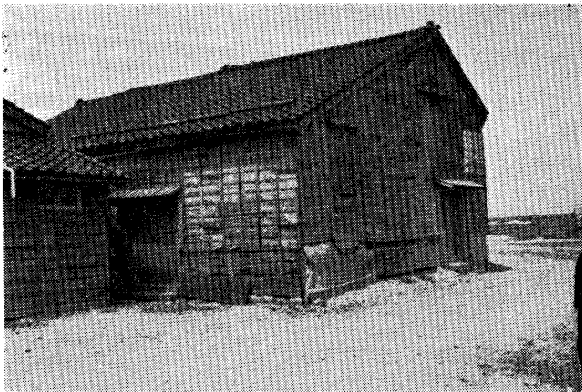
此等は道路に面し，平入りの町屋造りの建物で道路をへだてた反対側はすぐ岸壁で舟が

碇泊出来て板橋を渡し荷の上げ下しをしていた。当時の景観は輪島前神社にある日本名蹟図誌、加能宝鑑、輪島前神社の図録の中に船宿の並んだ町の様子が紹介されている。

今回の調査報告は七軒の中、現在する①沖の崎（沖崎忠次郎）②刀禰（現在は沖崎正文、山下芳松と二軒に分割されている。）③浦屋（坂角作太郎）⑤宮野屋（現在は主屋に沖崎七衛門、倉に宮野与三次と二軒に分割されている。）以上四軒で改築、増築と大分当初の建物の様子と異ってはおるが、二階への階段が各室に個々に設けられておるとか出入口附近の土間（にわ）が船荷を預り積み上げるスペースのため特に広くしてある等、船宿の特質が伺える。この四軒の中で刀禰は天保4年の津波の際残ったと言われ最も古い。而しどの建物も記録がまったく無いのは残念である。

なお調査に当り輪島市文化財保護委員、古今伸一郎先生、輪島前神社宮司中村五月氏の御世話に対し、又、沖の崎、宮野、山下、坂角各氏の御協力に対し深く感謝致します。

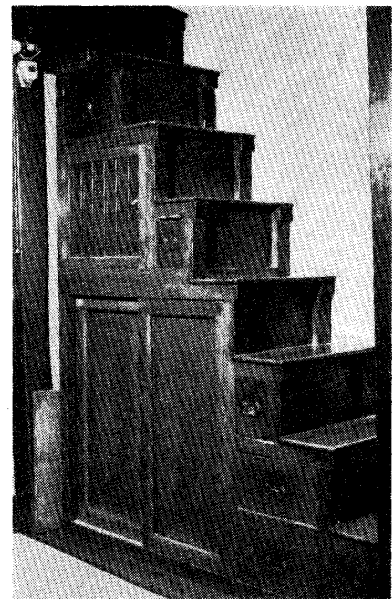
（由良記）



“沖の崎”（沖崎忠次郎）船蔵

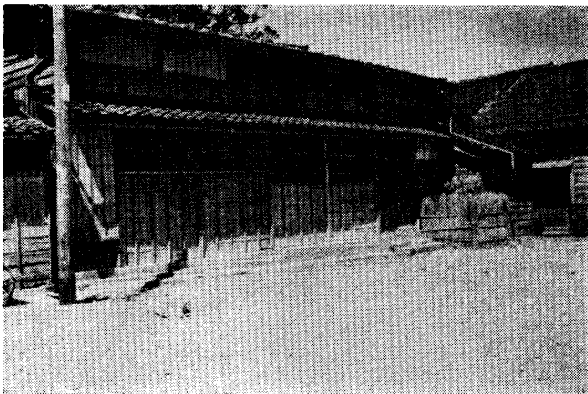


左から浦屋（坂角作太郎）刀禰（沖崎正文、山下芳松邸）と続く



浅い床の間の様な場所に巾45cm位の珍しい箱階段

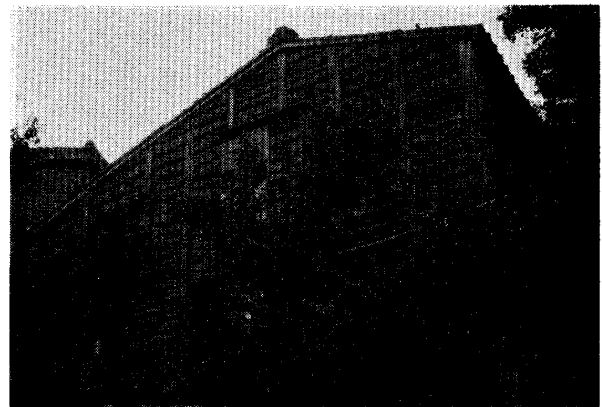
沖の崎・箱階段



“沖の崎” (沖崎忠次郎邸)
右隣船蔵，へと続く



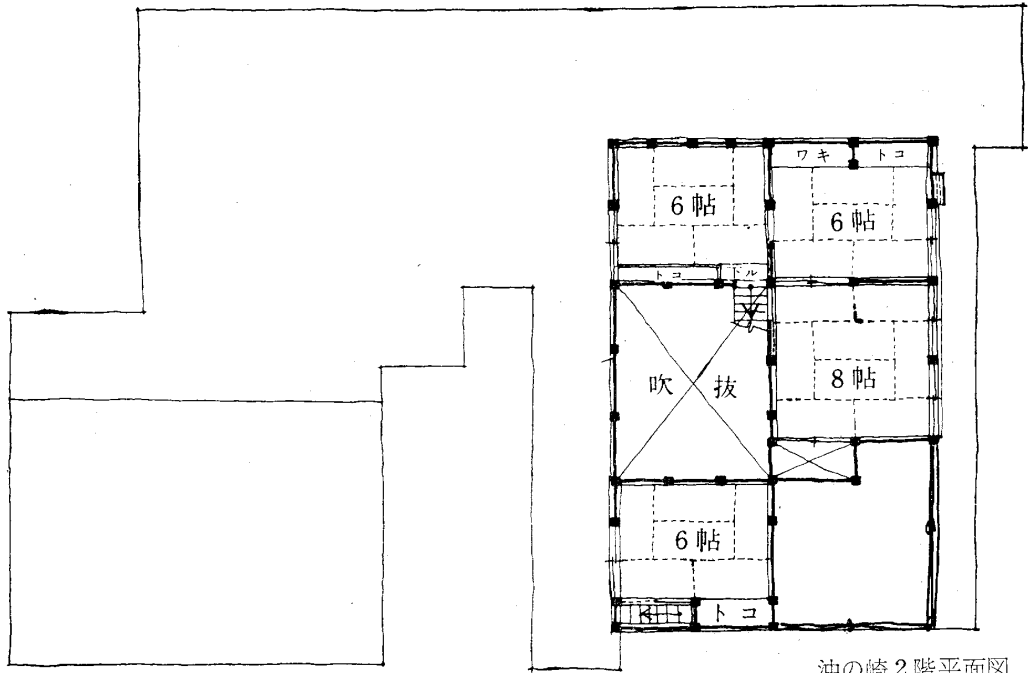
宮野屋 (沖崎七衛門邸)



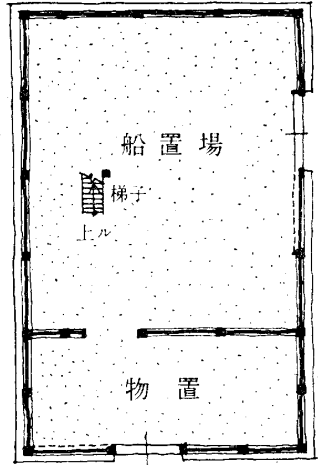
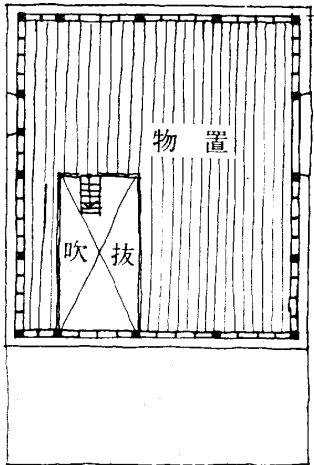
宮野屋，土蔵 (宮野興三次邸)



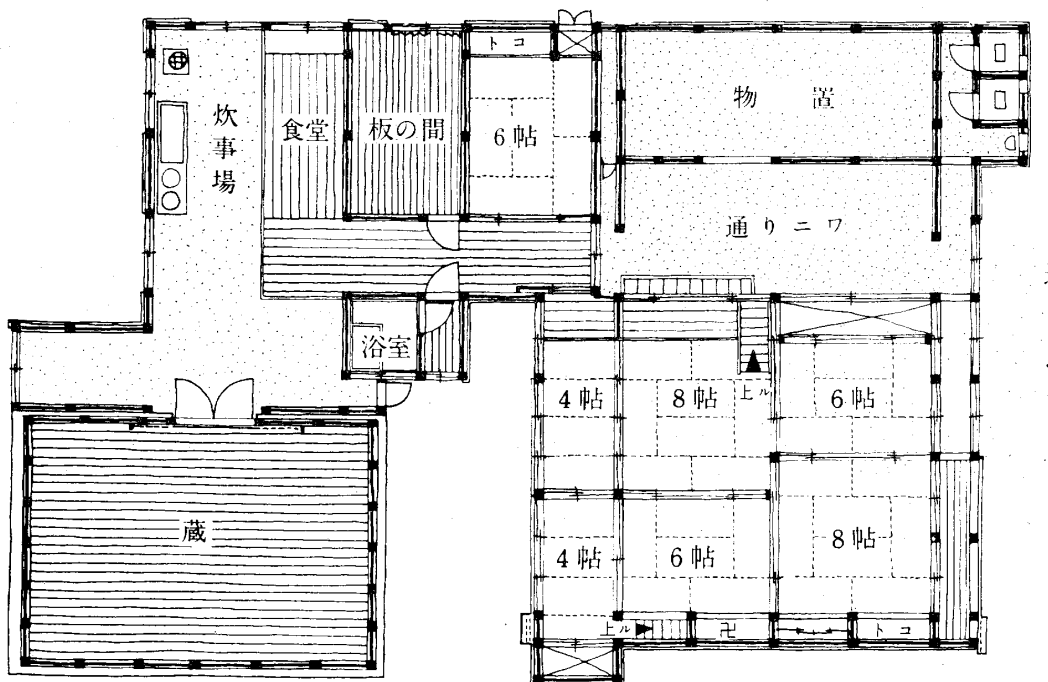
母屋受梁端に刳り形が附して
ある浦屋—2階窓廻り詳細



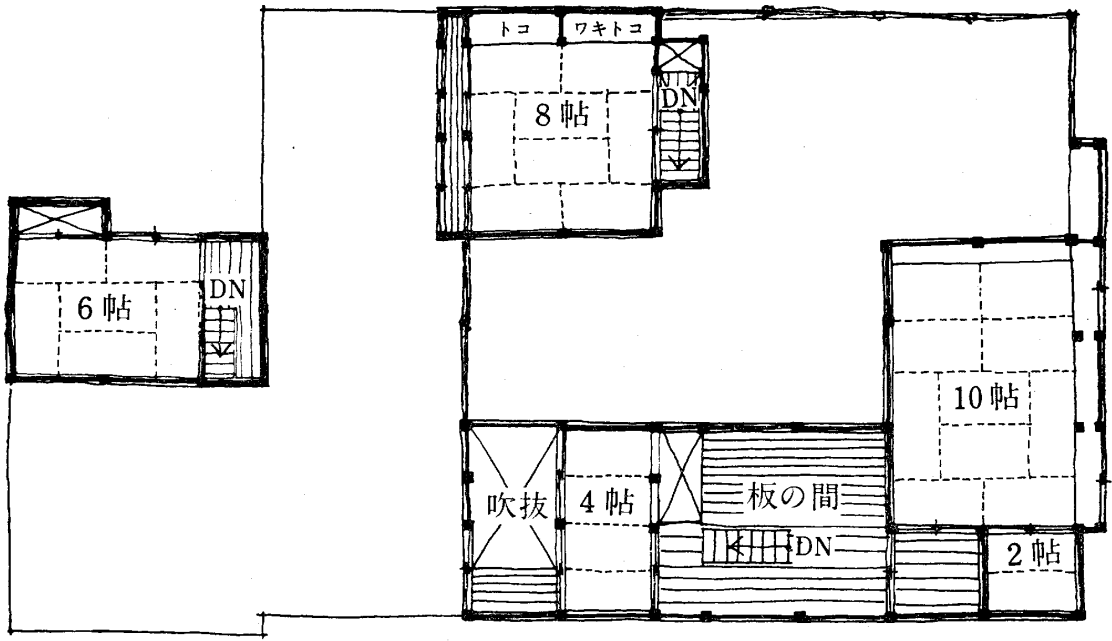
沖の崎 2階平面図



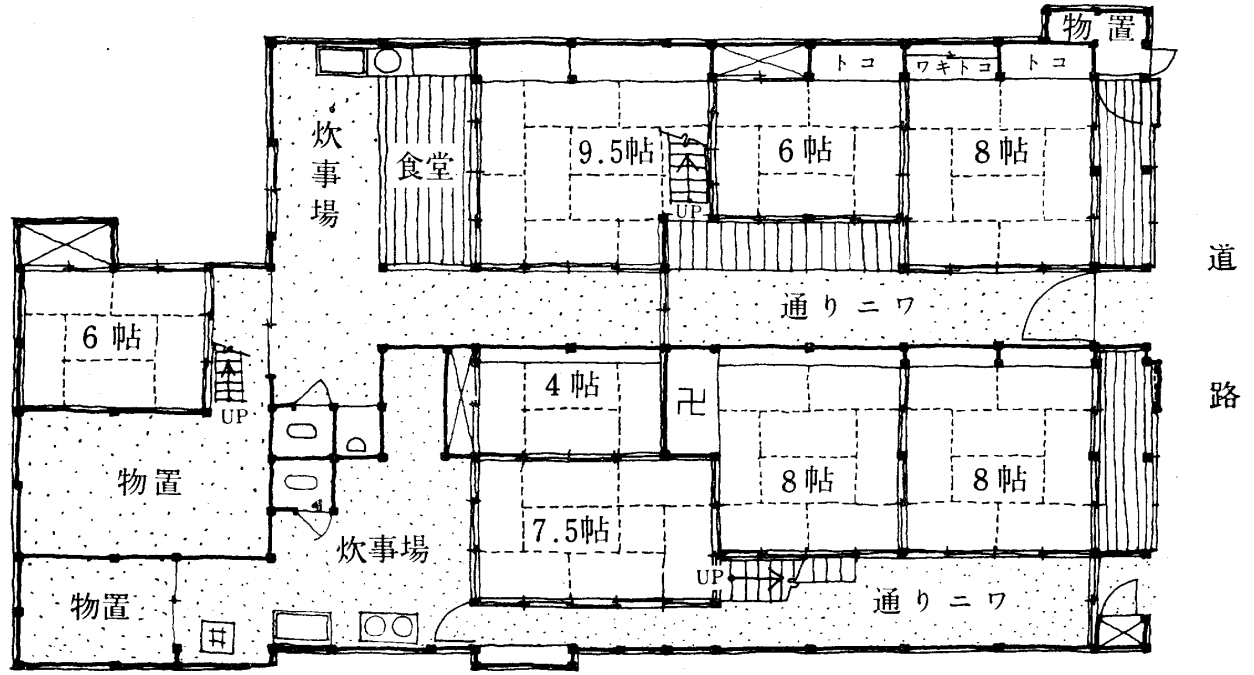
← 船倉 2階平面 船倉 1階平面 →



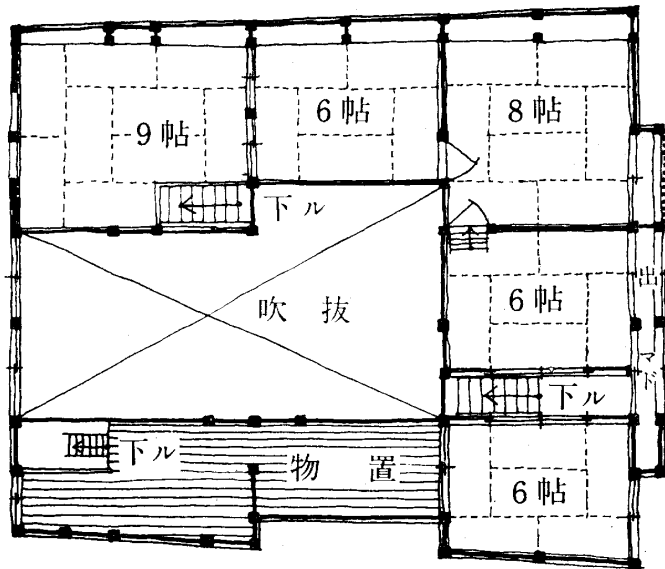
沖の崎 (沖崎忠次郎邸) 1階平面図



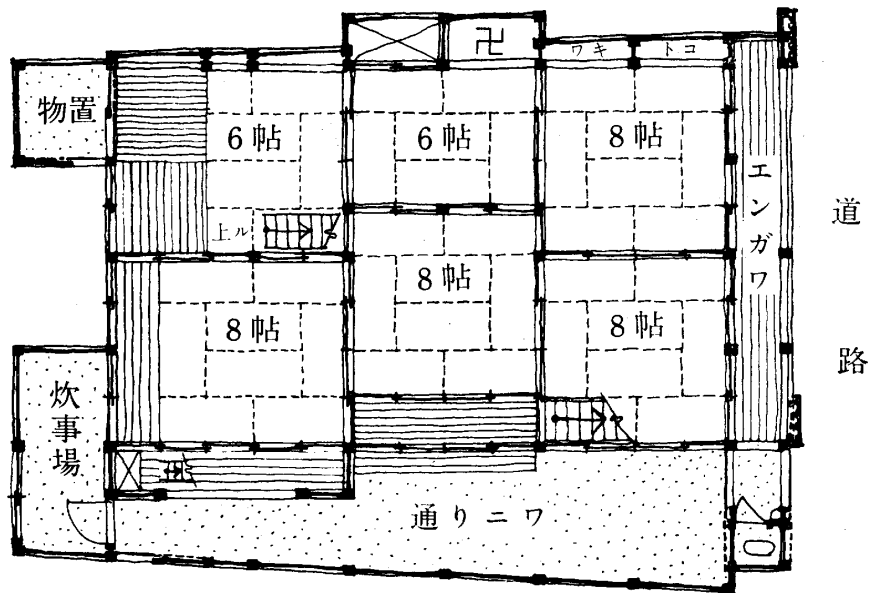
刀禰 2階 平面図



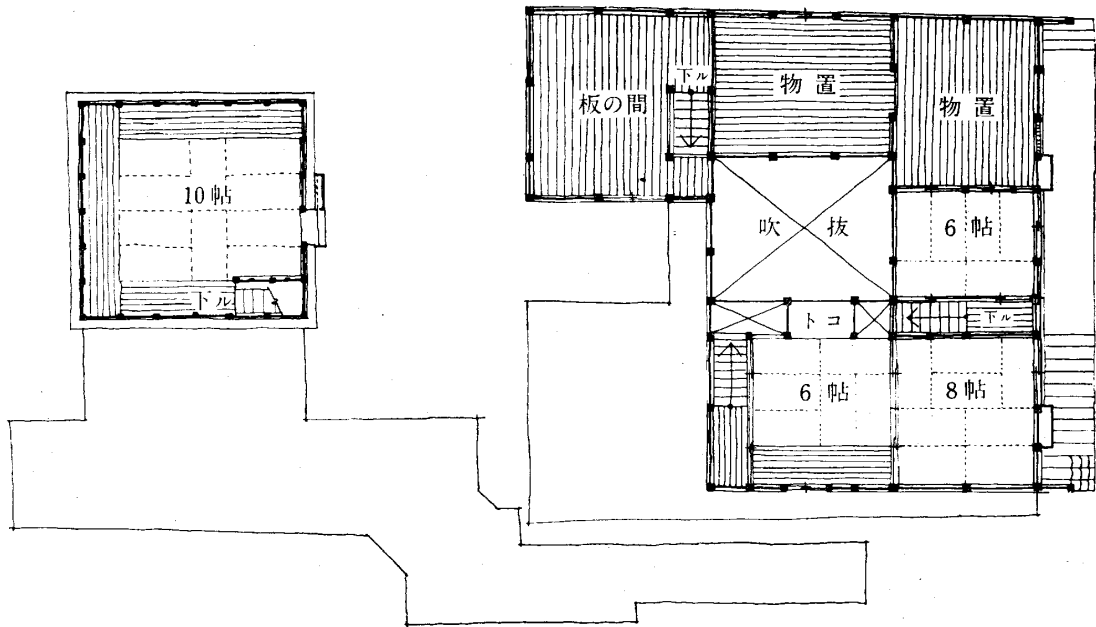
刀禰 (沖崎正文, 山本芳松邸) 1階平面図



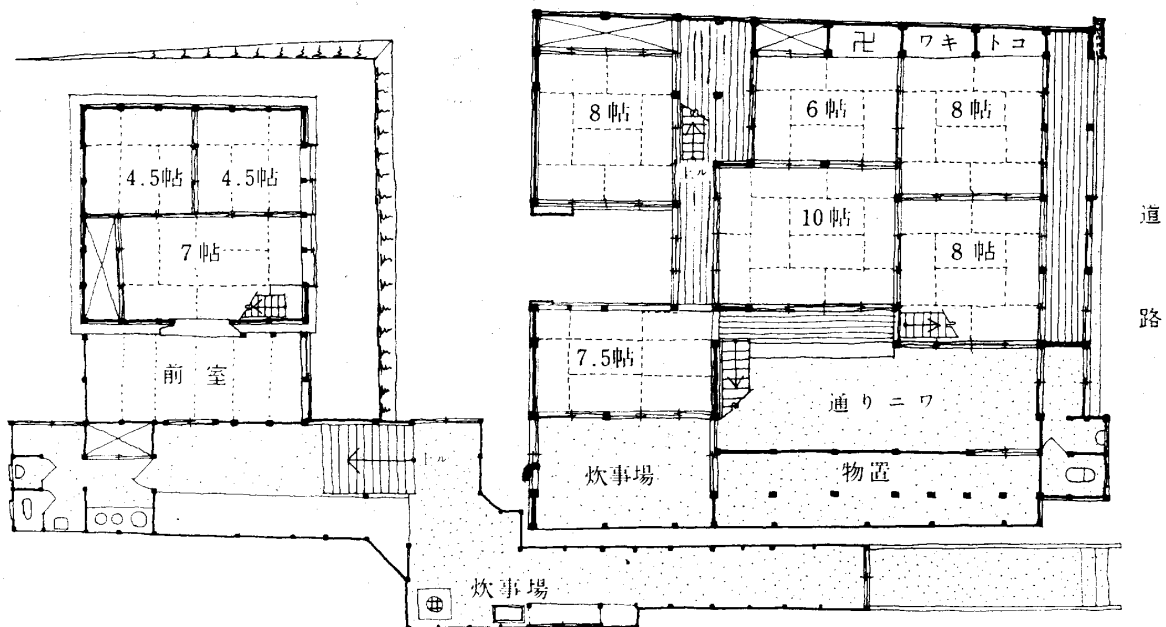
浦屋 2階平面図



浦屋 (坂角作太郎邸) 1階平面図



宮野屋 2階平面図



宮野屋（沖崎七衛門，宮野与三次）1階平面図